

水稻種子の異品種混入(コンタミ)防止チェックリスト

2021年産水稻種子も「純粋性」「健全性」「良質」を兼ね備えた信頼される優良種子を生産しましょう!

「優良種子生産の手引き」等を参考に採種作業をしてください。

異品種混入の主な原因(一般栽培)

- ①こぼれ粉(漏生) …前年産と異なる品種の作付
- ②種苗の入手 ……品種の間違い
- ③種子処理 ……消毒・播種等の際の品種混同
- ④育苗時 ……苗の取り違い
- ⑤田植時 ……苗の植え違い
- ⑥収穫時 ……コンバイン等の機械の清掃不備
- ⑦乾燥調製 ……乾燥調製機等の清掃不備

異品種混入(コンタミ)防止のポイント

3月

ほ場準備・種子予措

チェック欄

- ①栽培履歴・GAPシートを作業毎に点検・記載する。
- ②作付品種は、一般栽培用と採種品種は同一とする。(隣接のほ場は、同一品種とする。)
- ③種子用(原種)は、品種名と数量を確認し、一般栽培用とは別に保管するとともに、播種作業までは専用のネット袋からは出さない。
- ④種子用(原種)と一般栽培用のネット袋にはそれぞれに名札等を付けて区別する。
- ⑤消毒・播種は、必ず種子用(原種)を一般栽培用の前に行う。また、成熟期の近い品種を作付する場合は、作期分散と交雑防止のため播種日の間隔を長くする。

4月

育苗

チェック欄

- ⑥播種機は、種子専用とするか、一般栽培用を使用する場合は十分清掃し、残留粉を取り除き、種子用(原種)を先に播種し、作業後は十分清掃し、こぼれ粉は廃棄する。
- ⑦育苗ハウスは、種子用(原種)と一般栽培用に分け立て札等を設置し、品種名と播種月日を表示する。
- ⑧育苗箱も、種子用(原種)の印等を必ず付ける。

5月

移植作業

チェック欄

- ⑨苗取り、運搬には、品種を確認し取り違いのないよう十分注意する。
- ⑩種子用(原種)を先に移植する。
- ⑪適正な株数(60~70株/坪)を移植し、さし苗(補植)は行わない。
- ⑫移植後、速やかに採種ほ場であることを示す立て札を設置する。
- ⑬前年と異なる品種を作付する場合は、こぼれ粉(漏生イネ)等を早期代かきや除草剤(プレチラクロールを含む初期剤)等により適確に処理する。

6月~8月

ほ場管理・収穫作業の準備

チェック欄

- ⑭漏生株や浮き苗は確実に抜き取る。(畦畔周辺も入念に行う。)
- ⑮出穂初期、穂揃い期に、混種・変種株、雑草イネ、病害等は株ごと抜き取る。
- ⑯混種・変種株等の雑穂等抜きは、収穫まで最低4回以上は行う。(分けつ最盛期、出穂期前後、穂揃期10日後頃(登熟期)、成熟期(収穫前))

6月~8月

ほ場管理・収穫作業の準備

チェック欄

- ⑰ほ場に空きビン・空き缶等がないか点検し、異物の混入防止を図る。
- ⑱コンバイン・乾燥機、運搬、調製、出荷用等の機械類は整備・清掃を徹底し、残量粉を取り除く。

9月~10月

収穫作業

チェック欄

- ⑲採種ほ場を立て札等で再確認する。
- ⑳コンバイン・フレコン等は、種子専用とし、種子専用とわかるよう印等を明記する。(機械利用組合等では、専用コンバイン等を決めましょう。)
- ㉑ほ場確認で刈り分けの指示又は倒伏した場合は、適正に刈り分けを行い、種子としない。
- ㉒収穫の順序は、最初に採種ほ場の収穫を行い、その後一般栽培用の収穫を行う。
- ㉓試し刈りをして品質を確認する。また、その年の最初に収穫した3袋(100kg程度)は種子にせず乾燥・調製機械を通して排出した後に収穫・乾燥・調製を行う。
- ㉔コンバインの機内残留粉は、毎日作業終了時に取り除く。

乾燥調製作業

チェック欄

- ㉕乾燥時には、乾燥機に品種名及び種子用・一般栽培用の表示をする。
- ㉖乾燥機の周辺等は常に清潔を保ち、こぼれ粉等は廃棄する。
- ㉗紙袋で出荷する場合は、紙袋・品種名を確認し袋詰めする。
- ㉘乾燥粉で種子センターへ搬入する場合は、搬入までの間は保管するフレコン等には名札を付し、温度・湿度の変化の少ない場所で保管する。また、搬入する際は、品質等を種子センター職員とともに確認する。

出荷作業

チェック欄

- ㉙収穫後、生粉で種子センターへ搬入する場合は、品種・コンテナ等を確認し、速やかに行う。また、搬入する際は、品質等を種子センター職員とともに確認する。
- ㉚出荷する種子の紙袋、記載事項、搬入するフレコン等の名札等を確認し出荷する。
- ㉛栽培履歴・GAPシートを種子の出荷・搬入に併せて提出する。
- ㉜出荷・搬入に当たっては、JAの種子担当者の指示に従う。
- ㉝翌年の異品種混入を防止するため、収穫調製等に使用した機械の清掃を行い残留粉を取り除く。